

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	672600319
法人名	有限会社 オキコウ
事業所名	グループホーム 薬師温泉
訪問調査日	平成 20年 8月 18日
評価確定日	平成 20年 10月 9日
評価機関名	株式会社 福祉工房

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	672600319		
法人名	有限会社オキコウ		
事業所名	グループホーム薬師温泉		
所在地 (電話番号)	山形県東置賜郡川西町大字西大塚字横道1354-13 (電 話) 0238-46-2255		
評価機関名	株式会社福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6-149		
訪問調査日	平成20年 8月18日	評価確定日	平成20年10月 9日

【情報提供票より】(平成20年 7月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算	12.95人

(2) 建物概要

建物形態	<input checked="" type="checkbox"/> 併設 / <input type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 / <input type="checkbox"/> 改築
建物構造	木造平屋建て 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円/1ヶ月30日の場合	その他の経費(月額)	300円/1日 他、実費
敷 金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要(平成20年 7月21日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 77.6 歳	最低	59 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立置賜総合病院、斉藤内科循環器科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所内に温泉があり、利用者は毎日温泉を楽しむことが出来る環境になっている。重度化したときの指針も明確になっており、主治医、かかりつけ医との連携もきちっとしており安心して生活できる事業所となっている。職員の利用者に対する声掛けも徹底されており、きめ細かな支援が行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域との付き合いに関しては、5月に地元の更生保護女性部がボランティアとして入ってもらったが現在継続はしていない。災害対策については防火水槽が出来たことにより地元消防団との話し合いを持つことが出来た。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を職員に説明し、全職員で参加し管理者がまとめた。改善策については月一回の部門会議で検討しすぐ対策している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者の近況報告、事故報告等に関し、家族や参加者より意見をいただきサービス向上に努めているが、参加者の構成に関しては利用者の生活に係わる地域の関係者が不足しているように思える。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱が必要ない対応をしている。家族からは管理者、職員に何でも話せる関係であるとの評価を得ている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	中高生のボランティアの受け入れ、幼稚園のおゆうぎ会の見学や来所、地区品評会や文化祭を見学といった交流を行っている。より地域生活に密着した形で地元との交流がなされていない。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型のサービスの意義は全職員理解していて「その人らしい」尊厳を理念にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月一回の職員会議等での理念の実践について話し合いを行っている。またその時々において理念である「その人らしい」生活とはを話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中高生のボランティアの受け入れ、幼稚園のおゆうぎ会の見学や来所、地区品評会や文化祭を見学といった交流を行っている。より地域生活に密着した形での地元との交流は不足している。	○	二市一町に関係しており、地域密着の地域がどうあるべきか悩ましい面はあるが、ボランティアや学校との交流以外に、生活の場としての地元の関係者(団体)等との交流が望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員に説明し、全職員で参加し管理者がまとめた。改善策については月一回の部門会議で検討しすぐ対応している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	利用者の近況報告、事故報告等に関し、家族や参加者より意見をいただきサービス向上に努めているが、参加者の構成に関しては利用者の生活に係わる地域の関係者が不足しているように思える。	○	地域の参加者がより多彩となることがより地域との関係性を深めることに繋がるとおもわれ、この点でのより継続した努力が望まれる。又行政より三ヶ月に一回の開催で良いとのことであったが、「おおむね2月1回以上」の意味を検討し課題により開催時を決めることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護の指定を取っているため、担当者とは情報交換しやすい状況にある。又疑問や要望を相談しサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	異常時にはすぐ電話で連絡している。又面会時かかりつけ医の利用時の様子を報告。毎月写真入のホーム便りで生活の状況を報告。金銭管理において毎月領収書を添付して収支報告書を家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱が必要ない対応をしている。家族からは管理者、職員に何でも話せる関係であるとの評価を得ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係から今年は職員の異動はなかった。異動がある場合は告知し数日前から顔合わせを行い、利用者との関係作りを早々に行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や講習会の案内を提供し受けたい研修、講習があれば参加する機会を設けている。復命書にまとめて回覧し、会議時に報告している。他事業所との交換実習も行っている。認知症研修といったより専門的な研修の機会は少ない。	○	より質の高い支援の為に、認知症介護に係わる研修など幅の広い研修を受けることが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームと定期的に交流会を実施している。またグループホーム置賜ブロック会の参加、山形県グループホーム協議会主催の交換実習に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	面会時に家族とゆっくり話せる環境作り、外出、行事、催し物に参加していただき共に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	従来の生活に近づけるよう、利用者家族から話を聞き、意向の把握に努めている。家族の意向は交換ノート等も取り入れている。意思疎通が困難な利用者に対しても動作等で確認、対応するようにしている。入浴等も希望に沿った対応をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにおいては意向、思いが明確になっていない傾向にあったが、その人らしさが表現できるセンター方式を利用しつつあり、これによって職員のアセスメント能力を高める取り組みを始めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が生じた場合、本人、家族と検討して計画を変更している。一般的に3ヶ月に一度の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医師、「斉藤内科クリニック」の患者であった利用者が多い。このため定期的受診、心身の状態変化のある場合は迅速に受診ができるようになっている。急変時はかかりつけ医からの紹介で総合病院(協力病院)へ搬送を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	平成20年2月に重度化指針が出来た。利用者、家族の意向を確認しながら運営者、管理者、ホーム長、介護職員と話し合いの場を設けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員には採用時より会議等で話をしている。利用者の尊厳、プライバシーを損なわない対応に心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る範囲で利用者の意向を受け入れ、日常生活の一人ひとりのペースを崩すことなく散歩、買い物、ドライブ等を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員(2人)で作り、利用者の好み等を入れている。食事の片付けは一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能である。温泉があるので一人で入浴する人もいる。デイサービスが利用していない時間でも利用できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯、食事作り、草花への水やり等はその日の調子に合わせて利用者自らが参加している。デイサービスのアクティビティのレクリエーションや慰問時に参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者のサインにあわせて、散歩、買い物、ドライブ又は自宅へ荷物を取りに行ったりしている。職員から買い物等への誘いの声がけもしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけずに見守りを徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回消防署が来ての訓練を行っている。通報訓練も別途行っている。夜間想定訓練、地域との連携した訓練は行われていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせた食事量、味付けをしている。食事委員会を設けて、話し合いをしている。水分、食事摂取量は記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節の花々や書道、趣味で作った飾りを飾っている。一部建物の構造から食事場所からトイレの使用しているのが見えるのがのれんをさげる等の工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳敷きの部屋があり様々なスタイルでくつろげるスペースになっている。居室の表札に「様」が使用されていることについては現在検討課題となっている。		